舞鶴小学校 学校だより	友の手を引く	２０１９年度 １ 月 ２３ 日 文 責 校長　渡邉　豪

※学校だよりのタイトル『友の手を引く』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。

令和2年が幕を開けました

新元号が発表され、令和元年がスタートしたと思ったら、もう令和２年の幕開けです。気持ちも新たに新年を迎えることができたことと思います。今年も皆様にとって、健康で充実した良い年になることを願っています。

さて、１月９日に始業式を行い、令和元年度の３学期がスタートしました。始業式で児童に話したことを抜粋して紹介します。

新年を迎え、今年も頑張ろう、と思った人もたくさんいるでしょう。その気持ちを忘れないうちに、ぜひ考えてほしいと思います。あなたの未来を良いものに変えるにはどうしたら良いでしょうか・・・。一つの方法として、今、自分の目の前にあることに一生懸命に取り組む、ということを続けていくことがあります。あなたの未来を変えるには、なんて言われると、４月に進級したらとか、中学校に入学したらがんばろう、とつい考えてしまいます。でも、そう考えているうちは、なかなか変わりません。大切なのは、今です。学校生活や毎日の生活は、点ではなく線でできています。毎日毎日の、今という点がつながって学校生活や毎日の生活という線になっていきます。

今のあなたの姿は、これまであなたが過ごしてきた今、という点がつながってできた線なのです。残念ながら過去は過ぎてしまったものなので、今から変えることはできません。でも、あなたの未来はこれからです。今この時、あなたが目の前にあることにどう取り組むか、という点がつながってあなたの未来になります。あなたが今、をどう過ごすかで、あなたの未来を良いものにできると思います。

今年行われる東京リンピックに出場する選手達も同じです。目の前にある今、をどれだけ「自分が速くなるために」、「自分が強くなるために」ということに使うことができたかで、その選手の未来も変わる可能性があります。

新しい年を迎えた今だからこそ、今、目の前にあることに一生懸命に取り組んで、今この時を素晴らしい点にしてください。その素晴らしい点をつなげて、素晴らしい線にしてください。３学期に皆さんが、今目の前にあることに一生懸命に取り組んでいる姿を見ることを、楽しみにしています。（抜粋）

児童の代表による新年の抱負（抜粋）

【2年生代表】

三学きがんばりたいことは、なわとびです。あやとびと二重とびをいまがんばっているので、２０回いじょうとべるようにたくさんれんしゅうしてできるようになりたいです。

三年生になったら新しい一年生に学校のことをいろいろおしえるので、てほんになれるようにがんばりたいです。あきらめない気もちをもっていろいろなことにちょうせんしたいです。

【4年生代表】

三学期は、二分の一成人式という行事があり、合奏もあります。私は以前の連合音楽会で小太こをしたので、今回は大太こができたらうれしいなと思います。しかし、そのためには、オーディションをがんばらないといけません。オーディションに受かるには、まず、家で毎日欠かさずリコーダーの練習をする必要があると思います。

将来の大きな夢、日々のしたいこと、いろいろあり、すべては努力が必要だと思います。一日一日を大切に頑張りたいなと思います。

【6年生代表】

私たち６年生は、春に六年間かよった舞鶴小学校を卒業し、中学生となります。最後の小学校生活となる三学期は、友達との思い出をたくさん作りたいと思います。そして、最高学年という自覚を持ち、下級生の手本となるように、あいさつや、話の聞き方などを意識して過ごしたいと思います。

「西中生徒交流訪問」が行われました

１月２２日午後２時４５分から３時３０分まで、西中学区三校連携事業の一つである、「西中生徒交流訪問」が行われました。昨年度、舞鶴小学校を卒業して西中に進学した２名を含む１年生８名が来校し、４月に中学校に入学する６年生と交流活動を行いました。

交流訪問の内容は、①中学校生活について（学習面・生活面・部活動・学校行事）②学年合唱ビデオの上映　③中学校生活のスライドでの紹介　④西中クイズ　⑤入学に向けての心構え、という内容でした。

このような交流会が、甲府市内の小・中学校で初めて行われたのは、１１年ほど前になります。いわゆる「中１ギャップ」の解消に向けた、小・中学校での連携した取り組みの１つとして始まりました。昨年度、今の６年生が５年生だったときに、本校の最上級生として学校をリードしていた顔見知りの子どもたちが中学生になった今、中学校生活について画像や動画を交えて紹介しながら、中学校生活の率直な感想などを直接聞かせてくれるところがポイントです。６年生ももっと知りたい点について質問し、中学生が答えるという場面もあり、これから向かう中学校生活についての理解を深める機会になったと思います。

さらに、この交流会を開催するにあたり、６年生は「西中生徒交流訪問実行委員会」を組織して、実行委員が中心になって交流会の運営を行いました。中学生の誘導・はじめの会の運営・実行委員長の話・おわりの会の運営・お礼の言葉など６年生が事前に計画したとおりに、交流会が運営されていきました。さすが舞鶴小学校をリードする最上級生である６年生です。とても立派な姿でした。